

平成 30 年度大規模地震時医療活動訓練 (高知市避難所訓練)

(公社) 高知県栄養士会 理事
高知県立大学健康栄養学部 島田 郁子

平成30年8月3日正午に南海トラフ地震が発生したと想定し、翌日8月4日に大規模地震時医療活動訓練が潮江南小学校で行われました。高知県栄養士会よりJDA-DAT(災害支援活動チーム)リーダーとして、高知県立大学からは廣内智子、島田郁子、西土佐診療所からは篠田知佐の3名が参加しました。訓練テーマは地震発生後の避難所開設を行い、DMATをはじめ、各支援チームにおける避難所支援の対応について確認、検証すること、また、各チーム同士の連携体制を構築する、というものです。実際発災直後に、栄養士が派遣されることはありませんが、今回は避難所を訪問し避難者への栄養アセスメントを実施しました。

午前中は、日赤奉仕団の炊き出し準備に入りました。豚汁とアルファ化米のおにぎりを調理しました。個別対応の可能性を考え、豚肉を除いた汁物を、アルファ化米の五目ごはんには食物アレルギー(大豆、卵、乳、小麦、鶏肉)の表記を行うことを提案したところ、すぐに対応されました。調理実習室の丸椅子をさかさまにし、ゴミ袋をかけると簡易ゴミ箱になる技を教えてくださいました。

避難所では、DMAT、地域災害支援ナース、日赤救護班、高知県薬剤師会等多くの団体が入っており、薬剤師会の方に話しかけて、支援内容についてどこまで行うか等の話をすることができました。訓練前に、事前に各団体とつながりを作っておくことは重要だと思いました。避難者は町内会の自主防災組織の方などで、事前に傷病等の条件を仕込まれており、我々はローラー作戦で各自避難者の方に状況をお聞きしました。低栄養の方、認知症の方がおられ必要に応じて医療のほうへつなぐなど、約1時間半の時間があっという間でした。真夏の30度を超える中での訓練だったため、最後まで避難所に待機することができなかった避難者役の方もおられ、今後の課題として水分補給、休憩時間の確保等があると感じました。訓練後、廣内先生による避難所における栄養管理等、避難者にレクチャーをしました。



この訓練を通じて、他職種との連携を意識してコミュニケーションを事前にとることが重要であること、住民の方の防災についての積極的な姿勢等多くのことを学ぶことができました。日赤奉仕団の方が、「訓練は毎回気づきがある。」とおっしゃっていたことを忘れず、今後の訓練に参加したいと思います。